

2022年度 学校関係者評価報告書

学校名:あいち福祉医療専門学校

2023年8月1日

1 2022年度 学校目標

当事者意識、貫徹意識、学園意識をもって学園ならびに学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえ「不易流行」の観点で「重見天日」を目指す、より一層の教育力と協働意識を高めて教育付加価値/学修成果を追求する。

- 1)「当事者意識」「貫徹意識」「学園意識」の自覚を高める自己点検と情報の共有・協働
- 2)出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率92%超
- 3)国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%(年内70%)
- 4)総定員充足率80%(352名)以上の安定確保が目標
- 5)Web活用プロジェクトの展開/iPad活用授業研究/遠隔授業研究/電子黒板運用
- 6)校友会運営の協働(部会活動の活性化)
- 7)3学科(C,PT,OT)実習指導者研修会/多職種連携の他校間連携(OT)
- 8)高・専接続が期待できる講座実現(介護初任者研修の高等課程夏期講習)
- 9)出前授業・総合学習受け入れ/実務者研修・認知症入門研修/新指導要領(高校'22年度年次進行)に沿う介護技術講習/認知症カフェ/総合確保基金研修(「健康プロモ」を啓発研修)
- 10)学園展開の海外との教育連携とともに実際の取り組み
- 11)介護福祉学科外国人留学生教育の国家試験対策
- 12)他団体の介護福祉士養成システムとの協働
- 13)入学生176名(入学定員充足率88%)の目標
- 14)AOエントリー含む出願者数240名
- 15)SNSおよびトピックス活用へ三意識をもちホームページ広報の活発化
- 16)経費節減、教育研究経費・管理経費の在籍者数に応じて意図的削減
- 17)ペーパーレス/オンライン意識・整頓意識定着
- 18)養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理の計画的実施
- 19)学校目標のロードマップ共有/各数値目標の階層的把握
- 20)カリキュラムマップ(AP-CP-DP)に即したロードマップおよび卒業教育展開
- 21)情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

2 学校目標に対する学校関係者評価委員の評価・意見

- ①すばらしいと思う。
- ②出席率や退学率については、いろいろな学生が増える中で大変かと思うが、今まで同様の対応をお願いしたい。
- ③留学生の受入れや対策についても、とても大切なことで、良いと思う。
- ④留学生の教育に力を入れているのが見受けられる。社会のグローバル化に対応できていると思う。
- ⑤退学率に関しては、高いとは思わないが、実習受入れ側の施設としても、介護の仕事への不安解消、やりがい、モチベーション向上ができるような学生との関りを職員間で共有する必要があると思う。
- ⑥卒前、卒業の一貫教育についてももう少し具体的な目標設定はできないか。
- ⑦あいち福祉医療専門学校の特徴をどう出していくのか。あいち福祉医療専門学校でないと学べない目標を設定してほしい。

3 学校関係者評価委員による評価平均(「令和2年度学校自己評価報告書」に基づく)

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1(教育理念・目標)	4.0	4.0	4.0
基準2(学校運営)	3.9	3.9	3.4
基準3(教育活動)	4.0	3.9	4.0
基準4(学修成果)	4.0	3.9	4.0
基準5(学生支援)	4.0	4.0	4.0
基準6(教育環境)	4.0	4.0	4.0
基準7(学生の受入れ募集)	4.0	3.9	4.0
基準8(財務)	4.0	4.0	3.9
基準9(法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10(社会貢献・地域貢献)	4.0	4.0	4.0
基準11(国際交流)	4.0	4.0	4.0
評価基準	4:適切な評価である 3:ほぼ適切な評価である 2:やや不適切な評価である 1:不適切な評価である	4:十分適切な取組みである 3:ほぼ適切な取組みである 2:あまり適切とはいえない取組みである 1:適切とはいえない取組み	4:十分な効果が期待できる 3:ほぼ十分な効果が期待できる 2:あまり効果が期待できない 1:効果は期待できず、改善を要する

4 「2022年度学校自己評価報告書」について学校関係者評価委員より出された意見(自由記述)

- ①多様性の中で、なみなみならぬ努力をされており感服した。
- ②学生募集の中で社会人向けの「トワイライト説明会」はとても良いと思い。
- ③学生募集に関しては、厳しい状況にも関わらず、素晴らしい成果をあげられていると思う。卒業生からの体験等を伝えることで、業務に興味を持ってもらえるきっかけとなるのであれば、職員の派遣等で協力させてもらう。
- ④実習という新しい環境に飛び込むための免疫力を付ける必要があると思われる。卒業生を招聘して、実習の楽しさ、辛さ、身についた事等を話してもらえる機会があると良い。
- ⑤在学生のモチベーションを上げることを目的に卒業生との交流の時間をもつたらどうか。卒業生にとっても新たな発見を見つける機会にもなる。
- ⑥1年次から、仕事のイメージを持たせるために、卒業生などから経験談聞く機会を作してほしい。
- ⑦介護福祉学科は実習を行った施設先への就職が約70%と伺っている。受入側としても学生の持つベネフィットを向上させる対応を取ることが重要となるが、同時に実習について、今後も学校と相談できる機会を持てるとありがたい。

5 今後の改善方策等

- ①18歳人口が減少する中、高校卒業生を対象とした募集活動のみならず、社会人(高校既卒者)、外国人留学生、雇用セーフティーネット対策訓練生等、多様な募集活動を実施する。
- ②多くの委員ご指摘のとおり、在校生と卒業生の交流を重視していきたい。現在、校友会を中心に卒業生交流会を開催し、卒業生に取っては新たな知識の学習の場となるとともに、在学生にとっては臨場現場で活躍している先輩との校流の機会となっているが、正規授業内でも在校生と卒業生の校流に機会を作って行きたい。
- ③2022年度は安城医師会碧海看護専門学校との多職種連携授業が実施された、今後も多職種連携を踏まえた共同授業を実施する。
- ④介護福祉学科では、各実習施設が実習方針等を学生に直接説明する「実習前ガイダンス」を開催している。その結果、学生と実習施設のミスマッチを事前に防ぐことができ、実習先への就職が約70%と向上した。今後も実習施設と連絡を密にする。
- ⑤学校関係者評価委員からはすべての項目について「3」以上の評価をいただいた。この評価に満足することなく今回学校関係者評価委員から出されたご意見も参考にし、学校運営に取り組み、「Well Being」を追求する所存である。